



堺化学工業株式会社

堺化学工業株式会社

2024年3月期 中間決算説明会

2023年12月1日

イベント概要

[企業名]	堺化学工業株式会社		
[企業 ID]	4078		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2024 年 3 月期 中間決算説明会		
[決算期]	2024 年度 第 2 四半期		
[日程]	2023 年 12 月 1 日		
[ページ数]	34		
[時間]	15:30 – 16:25 (合計：55 分、登壇：43 分、質疑応答：12 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]	32 名		
[登壇者]	2 名		
	代表取締役社長 執行役員	矢倉 敏行 (以下、矢倉)	
	執行役員	大釜 信治 (以下、大釜)	

登壇

司会：ただ今から、堺化学工業株式会社様の、2024年3月期中間決算説明会を開催いたします。今回の説明会は会場での開催に加え、ライブ配信形式のオンラインと併せたハイブリッド形式で開催させていただきます。

まず、最初に同社からお迎えしております、お二方をご紹介します。代表取締役社長、矢倉敏行様。IR担当執行役員、経営企画部長、大釜信治様。

本日は、ただ今ご紹介申し上げましたお二方から、ご説明いただきます。ご説明いただいた後、質疑応答の時間といたします。その後に今回、オンラインで参加されている方からもご質問をお受けする予定です。ライブ配信からの質疑は、チャット機能により実施いたします。

なお、このIRミーティングは質疑応答部分も含め、全文を書き起こして公開する予定です。したがって質問される際、会社名、氏名を名乗っていただいた場合は、そのまま公開されます。もし匿名を希望される場合は、氏名は省略していただいても結構です。

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

大釜：改めまして、堺化学工業株式会社、IR担当の大釜でございます。本日はお忙しいところご参加いただきまして、誠にありがとうございます。それでは、2024年3月期中間決算説明会を始めたいと思います。

まず冒頭、大変申し訳ございませんが、お配りしております資料に関して印刷した後、少し修正がございましたので、おわび申し上げます。本当に少しの点なんですけれども、前に投映させていただいています資料が修正版となりますので、ご了承をお願いしたいと思います。

本説明会のポイント

事業環境が想定より低調に推移し、減収減益。下期も大幅な回復は見込めないため、通期予想を下方修正

- 成長事業と位置付ける電子材料・化粧品材料は、現中期経営計画のもと積極的な設備増強を実施したものの、年度内は市況に連動した緩やかな回復にとどまる見込み
- 化粧品材料は、国内向けは回復。欧米での在庫調整や中国の景気減退などの影響も受けた
- 樹脂添加剤は、東南アジアでの非鉛化の進展を受けて鉛系の生産設備の稼働が落ち込んだ。非鉛系製品の販売を強化し、収益基盤の移行を加速していく
- 酸化チタンは、安価な中国品の輸入増など外部環境が悪化。既存の価格是正だけでなく、更なる追加策を講じていく。



では、まずはじめに本日のポイントを申し上げます。

当初想定しておりました事業環境が、想定よりも低調に推移いたしましたので、中間期は減収減益となりました。下期も大幅な回復は見込めないため、通期予想は下方修正いたしました。

成長事業と位置づけます電子材料、化粧品材料は、現中期経営計画の下、積極的な設備増強を実施しましたものの、年度内は市況に連動した緩やかな回復にとどまる見込みでございます。

化粧品材料は、国内向けは回復しておりますが、欧米での在庫調整や中国の景気減退などの影響を受けました。

樹脂添加剤は、東南アジアでの非鉛化の進展を受けまして、鉛系の生産設備の稼働が落ち込みました。今後の方策としまして、非鉛系製品の販売を強化しまして、収益基盤の移行を加速してまいります。

酸化チタンは、安価な中国品の輸入増など、外部環境が悪化しました。今後は現在執り行っております既存品の価格是正だけでなく、さらなる追加策を講じてまいります。

目 次

1. 2024年3月期中間業績結果&セグメント別結果
2. 期初見込みからの乖離と今後に向けて
3. 株主還元（配当）・設備投資等見込



本日の説明内容は、このとおりになっております。前半の1番の項目は私、大釜から。2番目以降は、社長の矢倉から説明いたします。

それではまず1番目、2024年3月期の中間期業績結果と、事業別の結果を説明いたします。

2024年3月期 中間決算業績概要（対前年同期比）

（百万円）

	2023.3 2Q		2024.3 2Q		増 減	
		売上高比		売上高比		
売上高	42,694	—	40,471	—	▲ 2,222	▲5.2%
営業利益	3,267	7.7%	917	2.3%	▲ 2,350	▲71.9%
経常利益	3,830	9.0%	885	2.2%	▲ 2,944	▲76.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,871	6.7%	▲ 2,033	—	▲ 4,905	▲170.8%

➤ 減収減益要因

酸化チタン事業において、安価な中国品の国内流入増加による市場環境の悪化により、販売数量が落ち込み、生産調整による稼働率の低下の影響もあり、減収減益となった。

➤ 補足（当期純損失について）

繰延税金資産の取り崩し（1,932百万円）を実施したため、当期純利益はマイナスとなった。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

5

まず、中間期の売上高でございますが、売上高 404 億 7,100 万円。対前年同期比でこれは比較しております。前年同期比で 22 億 2,200 万円のマイナスとなりました。

営業利益は 9 億 1,700 万円、前年同期比で 23 億 5,000 万円のマイナスとなりました。経常利益は 8 億 8,500 万円、前年同期比で 29 億 4,400 万円のマイナスとなりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、20 億 3,300 万円の赤字となりました。前年同期比で 49 億 500 万円のマイナスとなりました。

結果、減収減益となったわけですが、主な要因としまして、酸化チタン事業におきまして安価な中国品の国内流入増加による市場環境の悪化によりまして、販売数量が落ち込み、生産調整による稼働率の低下の影響もございまして、減収減益となりました。

そして当期純損失でございますが、繰延税金資産の取崩し 19 億 3,200 万円を実施したため、当期純利益はマイナスとなりました。

事業別売上高・営業利益（対前年同期比）

		2023.3 2Q	2024.3 2Q	増 減	
化学事業	売上高	38,572	36,313	▲ 2,259	▲5.9%
	営業利益	4,163	1,896	▲ 2,266	▲54.4%
医療事業	売上高	4,122	4,158	36	0.9%
	営業利益	240	144	▲ 95	▲39.6%
全社費用	売上高	—	—	—	—
	本社部門費	▲ 1,136	▲ 1,124	12	—
合計	売上高	42,694	40,471	▲ 2,222	▲5.2%
	営業利益	3,267	917	▲ 2,350	▲71.9%

▶ 化学事業:減収減益

酸化チタンを中心に販売数量が大きく減少した影響で減収減益となった。

▶ 医療事業:増収減益

サプリメント等の新規事業品の販売量が伸びてきたこと、また、既存事業である医療機器のリニューアル品やOTC医薬品の販売量が堅調に推移したことで、増収となった。しかし、バリウム造影剤やアルロイドGでの、販売数量の減少や薬価切り下げの影響が大きく、減益となった。



続きまして、事業別の売上高、営業利益をご説明いたします。

化学事業に関しましては、売上高 363 億 1,300 万円、前年同期比で 22 億 5,900 万円のマイナスとなりました。営業利益は 18 億 9,600 万円、前年同期比で 22 億 6,600 万円のマイナスとなりました。

医療事業ですが、売上高は 41 億 5,800 万円、前年同期比で 3,600 万円のプラスとなりました。営業利益は 1 億 4,400 万円、前年同期比で 9,500 万円のマイナスとなりました。

化学事業は減収減益でございました。こちらは先ほど申し上げましたように、酸化チタンを中心に販売数量が大きく減少した影響で、減収減益となりました。

医療事業は増収減益となりました。サプリメント等の新規事業品の販売量が伸びてきたこと、また既存事業であります医療機器のリニューアル品や OTC 医薬品の販売量が堅調に推移しまして、このことで増収となりました。

しかし、バリウム造影剤やアルロイド G での販売数量の減少や、薬価切り下げの影響が大きく、減益となりました。

貸借対照表について

金額単位：百万円

連結貸借対照表	2023.3	2023.9	増減
流動資産	72,101	76,250	4,149
現金	12,409	15,645	3,235
① 棚卸資産	30,125	30,231	106
固定資産	55,920	55,325	▲ 595
有形固定資産	46,761	46,635	▲ 126
② 無形固定資産	1,368	1,257	▲ 110
投資その他の資産	7,790	7,432	▲ 358
資産合計	128,201	131,575	3,554
流動負債	29,237	31,066	1,828
固定負債 ③	14,066	19,853	5,786
負債合計	43,304	50,919	7,615
純資産	84,717	80,656	▲ 4,061
負債・純資産	128,021	131,575	3,554
自己資本比率(%)	62.9	60.5	▲ 2.4
有利子負債(合計)	21,642	23,371	1,728

① 棚卸資産増減要因（期末決算調整含む）

数量影響：▲600百万円（対前期末比）
単価影響：+700百万円（対前期末比）

合計：+100百万円

前期末にかけ増加した棚卸資産について、生産調整を行った結果、数量は減少した。

② 投資その他の資産の主な増減要因

A：投資有価証券の評価額による影響額
+1,012百万円

B：繰延税金資産の取り崩しによる影響額
▲1,932百万円

③ 固定負債の主な増加要因

転換社債の発行：3,000百万円
長期借入金：1,995百万円



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

7

続きまして、貸借対照表でございます。

まず、右側に記載しております主な増減の要因を説明いたします。一つ目、棚卸資産の増減要因を記載しております。これは対前期末比で載せております。数量の影響で約6億円のマイナスとなりました。ただ単価影響でプラス7億円、合計で約1億円のプラスとなりました。

棚卸資産に関しましては、前期末にかけまして増加した棚卸資産について生産調整を行った結果、数量は減少いたしました。

続きまして、投資その他の資産の主な増減要因ですが、投資有価証券の評価額による影響額がプラス10億1,200万円ございました。ですが、繰延税金資産の取崩しによる影響額がマイナス19億3,200万円ございました。

三つ目、固定負債でございますが、転換社債の発行で30億円のプラス、そして長期借入金19億9,500万円増えました。

最終的にこの中間期末で、総資産に関しましては1,315億7,500万円、負債合計が509億1,900万円。純資産は806億5,600万円となりました。

キャッシュフロー計算書について

単位：百万円	2022.4~9	2023.4~9	増減
期首現金残高	10,549	12,188	1,639
税前利益	4,218	773	▲ 3,445
① 減価償却	2,191	2,255	64
棚卸資産	▲ 4,860	60	4,920
その他	▲ 427	99	526
営業CF	1,122	3,187	2,065
設備投資	▲ 1,319	▲ 1,646	▲ 327
株式売却	181	60	▲ 121
その他	▲ 147	▲ 39	108
投資CF	▲ 1,285	▲ 1,625	▲ 340
FCF	▲ 163	1,562	1,725
② 長短借入金	1,620	1,704	84
社債発行		3,000	3,000
子会社株式取得		▲ 2,631	▲ 2,631
③ その他	▲ 614	▲ 486	128
財務CF	1,006	1,587	581
期末現金残高	11,667	15,524	3,857

(FCF = 営業CF + 投資CF)

① 棚卸資産の圧縮により、営業CFを改善。

② 転換社債を発行し、3,000百万円を調達。

③ 堺商事株式会社を完全子会社化するため、2023年9月末時点で2,631百万円計上。総額では、約3,200百万円になる見込み。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

8

続きまして、こちらはキャッシュフローになります。こちら右側の増減の要因を、まず説明いたします。

まず、棚卸資産の圧縮によりまして、前期はかなり営業キャッシュフローがこの影響でマイナスとなりましたが、営業キャッシュフローはこの圧縮により改善されました。

そして投資キャッシュフローは飛ばしまして、転換社債を発行しましたので、30億円の財務キャッシュフローがプラスになっていることと、あとは堺商事株式会社を完全子会社化するために、2023年9月末時点で26億3,100万円を計上しています。こちらは総額では約32億円になります。

結果、営業キャッシュフローとしましては今期31億8,700万円、投資キャッシュフローは16億2,500万円のマイナス、財務キャッシュフローは15億8,700万円のプラス。期末の現金残高は155億2,400万円となっております。

ここからはお手元の資料をご覧くださいながらとなりますが、まずはセグメント別の業績を説明いたします。

電子材料

成長事業



●前年同期比較 (百万円)

	2022.9	2023.9	増 減	
売上高	4,956	4,097	▲859	▲ 17.3%
営業利益	753	24	▲729	▲ 96.8%

2024年3月期 中間決算のポイント

➤ 出荷数量が減少した。(前年同期比 ▲25.2%)

前期下期以降よりパソコン・携帯電話などの民生用機器向け半導体市場の低迷が続いており、当社誘電体(チタン酸バリウム)・誘電体材料(高純度炭酸バリウム)ともに出荷数量が減少したため、減収減益となった。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

9

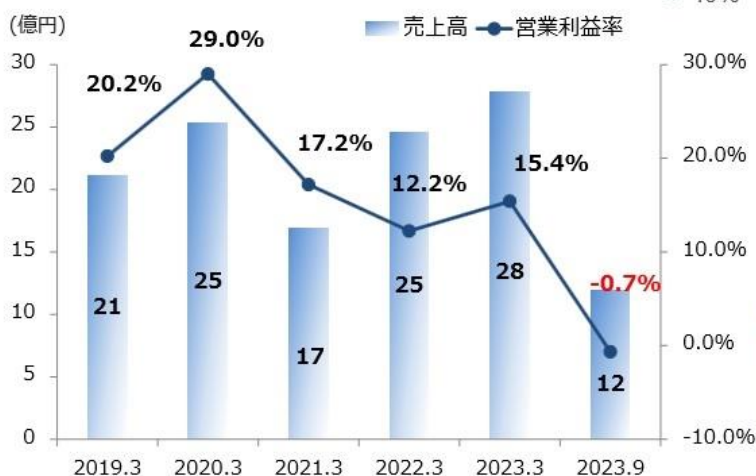
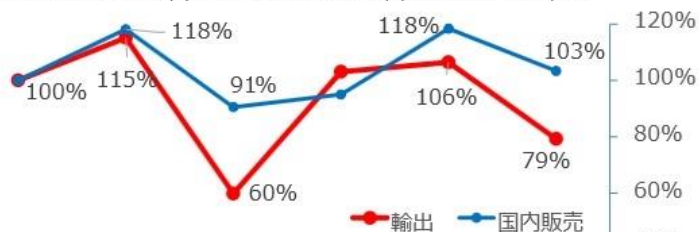
まず、電子材料でございます。

電子材料のこの中間決算のポイントですが、出荷数量が減少いたしました。これは前年同期比で25.2%のマイナスとなっております。

この要因ですが、前期下期以降よりパソコン、携帯電話などの民生用機器向けの半導体市場の低迷が続いておりまして、当社の誘電体、チタン酸バリウム、誘電体材料の高純度炭酸バリウムともに出荷数量が減少しましたので、減収減益となりました。

結果、売上としましては40億9,700万円、営業利益は2,400万円。減収減益という結果になっております。

(*2019.3期の月平均出荷数量を100とした、国内外の販売数量推移)



2024年3月期 中間決算のポイント

- 特に海外向けの販売の落ち込みが大きかった。
- 販売数量は、全体で対前年同期比 ▲16.9%
- また在庫圧縮に向けた生産調整も影響し、工場休止費用を計上した結果、営業損失となった。

●前年同期比較 (百万円)

	2022.9	2023.9	増減	
売上高	1,348	1,194	▲154	▲11.4%
営業利益	203	▲8	▲211	▲103.8%



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

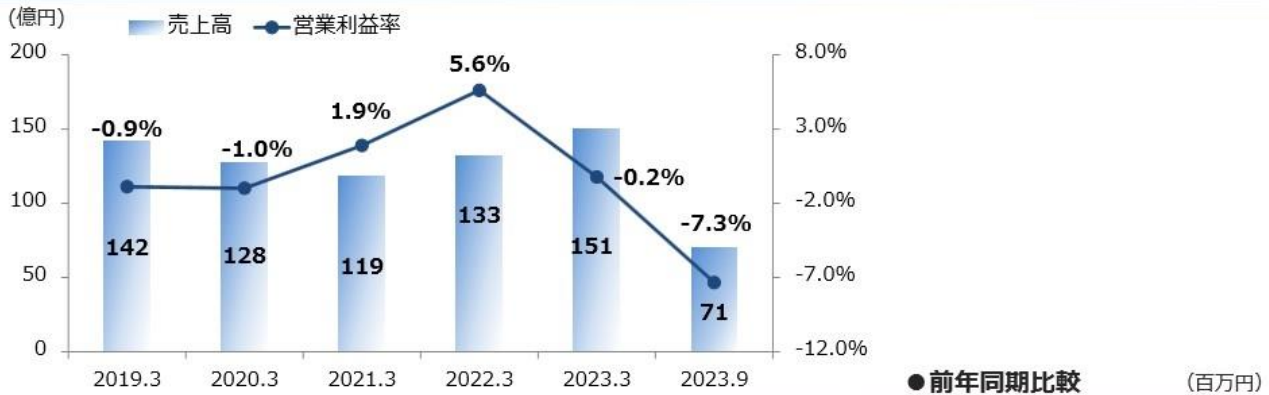
続きまして、こちらは成長事業の化粧品でございます。

こちらの中間決算のポイントですが、特に海外向けの販売が落ち込みました。これが非常に大きかった影響を受けております。販売数量は全体で、対前年同期比で16.9%のマイナスとなっております。また、在庫圧縮に向けた生産調整も影響しまして、工場休止費用を計上した結果、営業損失となりました。

結果、この中間期の売上高は11億9,400万円、営業利益は800万円のマイナスとなりまして、減収減益という結果になりました。

酸化チタン・亜鉛製品（化粧品材料を除く）

効率化検討事業



2024年3月期 中間決算のポイント

- 酸化チタン：価格改定は徐々に市場に浸透しているものの、安価な中国品の攻勢で市場環境が悪化し、前年同期に比べ出荷数量が減少し、稼働率も低下したことで減収減益となった。（数量：▲20.4%）
- 亜鉛製品：自動車タイヤ向けなどの販売数量が堅調に推移するも、亜鉛相場が前年同期よりも大きく下落し、相場に連動する販売単価がその影響を受けたので、減収減益となった。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

11

こちらは、効率化検討事業の酸化チタン・亜鉛製品でございます。

この中間決算のポイントですが、酸化チタンに関しましては、これまでも述べましたように、価格改定は徐々に市場に浸透してきてはいるものの、安価な中国品の攻勢で市場環境が悪化し、前年同期に比べ出荷数量が減少し、稼働率も低下したことで、減収減益となりました。数量は前年同期比で20.4%のマイナスとなっております。

亜鉛製品ですが、自動車タイヤ向けなどの販売数量が堅調に推移するも、亜鉛相場が前年同期よりも大きく下落しまして、相場に連動するかたちで販売単価がその影響を受けたので、減収減益となりました。

結果、この二つの合計ですが、売上高は70億8,200万円、営業利益は5億1,900万円の赤字となりまして、こちらも減収減益となりました。

樹脂添加剤

効率化検討事業



●前年同期比較 (百万円)

	2022.9	2023.9	増	減
売上高	6,712	6,944	232	3.5%
営業利益	312	273	▲39	▲12.5%

2024年3月期 中間決算のポイント

- 国内向けは、価格改定は市場に浸透してはいるが、住宅など、幅広く使用される建材や継ぎ手・パイプなどのPVC需要が低下した影響で、販売数量が減少したため、減収減益となった。
- 海外向けは、鉛系から非鉛系安定剤への切り替えが進む中、タイでの鉛系安定剤の販売量が減少したものの、同国及びベトナムでの非鉛系安定剤の販売数量が増加し、価格改定の市場への浸透もあり、増収増益となった。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

12

続きまして、こちらも効率化検討事業の樹脂添加剤でございます。

この中間決算のポイントですが、国内向けは、価格改定は市場に浸透してはいますが、住宅など幅広く使用される建材や継ぎ手、パイプなどのPVC、ポリ塩化ビニルのことですが、PVC市場が低下した影響で販売数量が減少したため、減収減益となりました。

海外向けに関しましては、鉛系から非鉛系安定剤への切替えが進む中、タイでの鉛系安定剤の販売量は減少しましたものの、同国およびベトナムでの非鉛系安定剤の販売数量が増加し、価格改定の市場への浸透もございまして、増収増益となりました。

結果、樹脂添加剤としましては売上高 69 億 4,400 万円、営業利益は 2 億 7,300 万円、増収減益という結果になりました。

衛生材料

安定事業



● 前年同期比較 (百万円)

	2022.9	2023.9	増減	
売上高	2,652	2,763	111	4.2%
営業利益	136	256	120	88.2%

2024年3月期 中間決算のポイント

- 価格転嫁やコスト削減が進んだことで、増収増益となった。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

13

こちらは安定事業の衛生材料です。こちらは価格転嫁やコスト削減が進んだことで、増収増益となりまして、営業利益率も改善しております。

売上高は27億6,300万円、営業利益は2億5,600万円、増収増益という結果になっております。

有機化学品

安定事業



●前年同期比較 (百万円)

	2022.9	2023.9	増減	
売上高	4,383	3,727	▲656	▲15.0%
営業利益	939	806	▲133	▲14.2%

2024年3月期 中間決算のポイント

- 医薬品原薬中間体は、原薬の販売量は増加したが、医薬品中間体の販売量が減少したため、減収減益となった。
- チオ製品は、プラスチックレンズ向け添加剤の販売量が期初予想よりも上回り、増収となった。しかし、原燃料高に対する価格転嫁は進展しているものの、更なる高騰分の影響は避けられず、減益となった。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

14

続きまして、有機化学品でございます。

この中間決算のポイントですが、医薬品の原薬中間体は原薬の販売量は増加しましたが、医薬品中間体の販売量が減少しましたので、減収減益となりました。

チオ製品は、プラスチックレンズ向け添加剤の販売量が期初予想よりも上回り、増収となりました。しかし、原燃料高に対する価格転嫁は進展してはいるものの、さらなる高騰分の影響は避けられず、減益となりました。

結果、有機化学品としましては売上高 37 億 2,700 万円、営業利益は 8 億 600 万円、減収減益という結果になっております。

触 媒

効率化検討事業



●前年同期比較 (百万円)

	2022.9	2023.9	増	減
売上高	2,062	1,689	▲373	▲18.1%
営業利益	104	27	▲77	▲74.0%

2024年3月期 中間決算のポイント

- 樹脂の水素添加工程などで使用されるニッケル触媒は、原料価格上昇についての価格転嫁が進展し、収益は改善した。
- 火力発電所やごみ焼却施設で使用される脱硝触媒は、前期で業績に貢献した海外向け大型物件の出荷が一段落し、減収減益となった。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

15

続きまして、効率化検討事業の触媒でございます。

中間決算のポイントですが、樹脂の水素添加工程などで使われるニッケル触媒に関しましては、原料価格上昇についての価格転嫁が進展しまして、収益が改善しました。

火力発電所やごみ焼却施設で使用される脱硝触媒は、前期で業績に貢献した海外向け大型物件の出荷が一段落しましたので、その影響によりまして減収減益となりました。

結果、触媒としましては売上高 16 億 8,900 万円、営業利益 2,700 万円と、減収減益という結果になりました。

受託加工

安定事業



●前年同期比較 (百万円)

	2022.9	2023.9	増	減
売上高	3,192	3,009	▲183	▲5.7%
営業利益	368	213	▲155	▲42.1%

2024年3月期 中間決算のポイント

- 加工顔料は、前年同期に比べ自動車関連向けの販売が増加したが、建材向けや浴用剤向けなどの販売が落ち込み、原燃料高の影響を受けたこともあり、減収減益となった。
- 焼成、混合、乾燥等の工程受託は、大型案件が受託終了となり、減収減益となった。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

16

こちらは、安定事業の受託加工でございます。

中間決算のポイントですが、加工顔料は、前年同期に比べ自動車関連向けの販売が増加しましたが、建材向けや浴用剤向けなどの販売が落ち込み、原燃料高の影響を受けたこともあり、減収減益となりました。

焼成、混合、乾燥等の工程受託は、大型案件が受託終了となり、その影響もあり減収減益となりました。

結果、受託加工としましては売上高 30 億 900 万円、営業利益 2 億 1,300 万円、減収減益という結果になりました。

医療事業

医療



●前年同期比較 (百万円)

	2022.9	2023.9	増減	
売上高	4,122	4,158	▲36	▲0.9%
営業利益	240	144	▲96	▲40.0%

2024年3月期 中間決算のポイント

- バリウム造影剤は、国内・輸出ともに出荷量が減少し、原材料高の影響も受け、減収減益となった。
- 「アルロイドG」は、薬価引き下げの影響と販売数量の減少で、減収減益となった。
- 医療機器は、内視鏡洗浄消毒器のリニューアル品を上市し順調に出荷台数を伸ばした。
- かぜ薬「改源」など一般用医薬品は、堅調に推移し、増収増益となった。
- 新規事業として注力中の美容医療機関向け製品（紫外線サプリメント）などが期初予想よりも販売量が増加したため、増収増益となった。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

17

続きまして、医療事業でございます。

中間決算のポイントですが、バリウム造影剤は国内、輸出ともに出荷量が減少し、原材料高の影響も受け、減収減益となりました。

アルロイドGは、薬価引下げの影響と販売数量の減少で、減収減益となりました。

医療機器は、内視鏡洗浄消毒器のリニューアル品を上市し、順調に出荷台数を伸ばしました。

風邪薬、改源など、一般用医薬品は堅調に推移し、増収増益となりました。

そして、新規事業として注力中の美容医療機関向け製品、紫外線サプリメントなどが期初予想よりも販売量が増加しましたので、増収増益となりました。

結果、医療事業としましては、売上高は41億5,800万円、営業利益は1億4,400万円、減収減益という結果となりました。

2024年3月期 通期業績予想

金額単位：百万円

	2023.3		2024.3					
	通期実績		上期実績		下期予想		通期予想	
		売上高比		売上高比		売上高比		対前期比
売上高	83,861	—	40,471	—	43,529	—	84,000	0.2%
営業利益	4,407	5.3%	917	2.3%	983	2.3%	1,900	▲56.9%
経常利益	4,854	5.8%	885	2.2%	815	1.9%	1,700	▲65.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,344	2.8%	▲2,033	—	1,233	2.8%	▲800	▲134.1%

- 売上高は、電子材料を中心とした、当初見込んでいた下期からの需要回復が見込めなくなったため、当初計画の91,000百万円から84,000百万円へ下方修正。（▲7.7%）
- 営業利益は、売上高同様に、下期に見込んでいた電子材料での収益などが見込めなくなったため、当初計画の4,500百万円から1,900百万円へ大きく下方修正。（▲57.8%）



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

18

1 番目の最後ですが、2024 年 3 月期の通期業績予想でございます。

通期予想、売上高は 840 億円、営業利益は 19 億円、経常利益は 17 億円、親会社株主に帰属する当期純利益は 8 億円の赤字と予想しております。

いずれも下方修正しておりますが、売上高は電子材料を中心とした、当初見込んでいた下期からの需要回復が見込めなくなりましたので、当初計画の 910 億円から 840 億円へ、マイナス 7.7%になりますが、下方修正いたしました。

営業利益は売上高同様に、下期に見込んでいた電子材料での収益が見込めなくなったため、当初計画の 45 億円から 19 億円へ、大きく下方修正しました。57.8%のマイナスと見込んでおります。

2 番以降は、社長の矢倉から説明させていただきます。

2024年3月期 当初予想との乖離

(百万円)

		当初見込み	上期実績	修正見込	増減額	増減率
売上高	上期	43,000	40,471		▲ 2,529	▲5.9%
	下期	48,000		43,529	▲ 4,471	▲9.3%
	通期	91,000		84,000	▲ 7,000	▲7.7%
営業利益	上期	1,200	917		▲ 283	▲23.6%
	下期	3,300		983	▲ 2,317	▲70.2%
	通期	4,500		1,900	▲ 2,600	▲57.8%

➤ 下期の業績見通しが、期初予想に比べ大きく下方修正となった。



矢倉：それでは、後半は私、矢倉よりご説明いたします。改めて、こちらのスライドをご覧ください。

売上高と営業利益について、当初見込み、上期実績、そして修正見込みがあり、この色の付いた部分が当初見込みからの増減額と増減率を示しております。なお、この当初見込みですが、この言葉は後で何度も使用いたしますが、本年5月12日に決算短信時点でお示ししました、2024年3月期の業績予想時のものをご理解ください。

左端の当初見込み欄、営業利益の上期、下期の差をご覧くださいとお分かりのとおり、もともと上期は保守的な業績を、そして下期以降は電子材料を中心とした回復を期待して、業績の見込みいたしました。

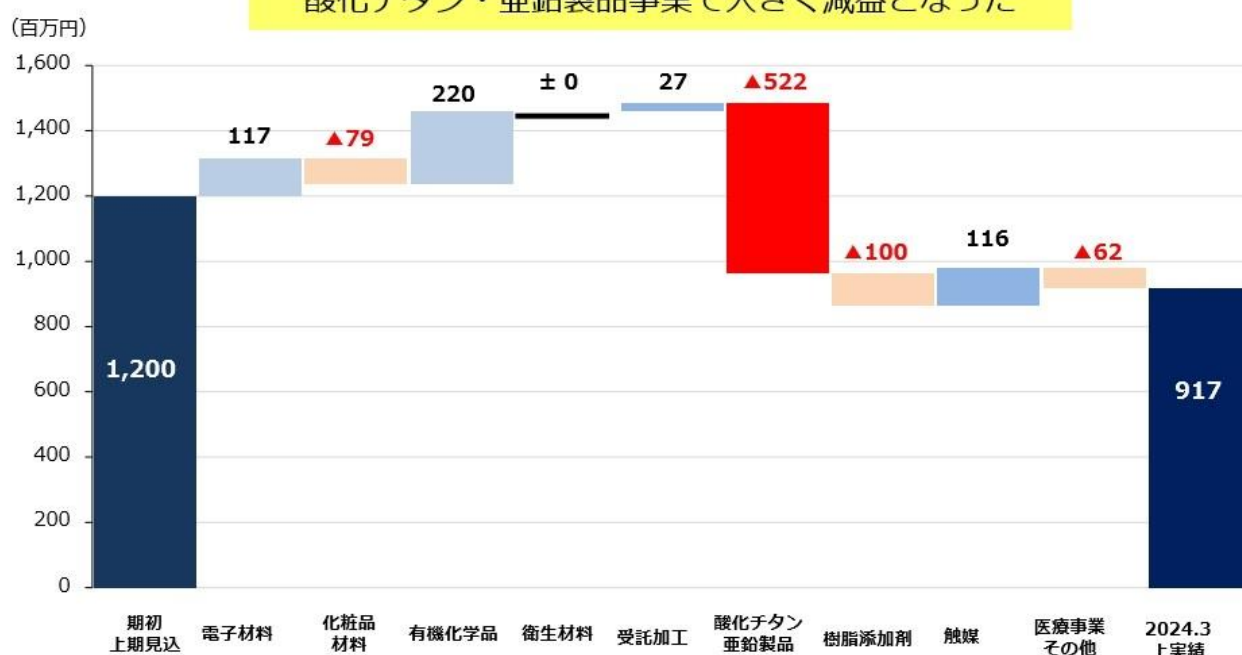
それを踏まえた上で、一番右側の増減率をご覧ください。上期実績は当初見込み比で売上高がマイナスの5.9%、営業利益でマイナスの23.6%、当初見込みを下回る結果となりました。

次に、下期については当初期待していた収益の回復が当期中に見込めないとの判断から、当初見込み比で売上高はマイナスの9.3%、営業利益につきましてはマイナスの70.2%と大きく下方修正することとなりました。

この上期での見込み違い、そして下期での大きな見込みの違いについて、特に乖離が大きかったセグメントを中心に、その背景と今後に向けた取り組みを説明いたします。

2024年3月期 上期当初予想との差額内訳（サブセグメント別）

期初予想を上回ったサブセグメントもあったが、酸化チタン・亜鉛製品事業で大きく減益となった



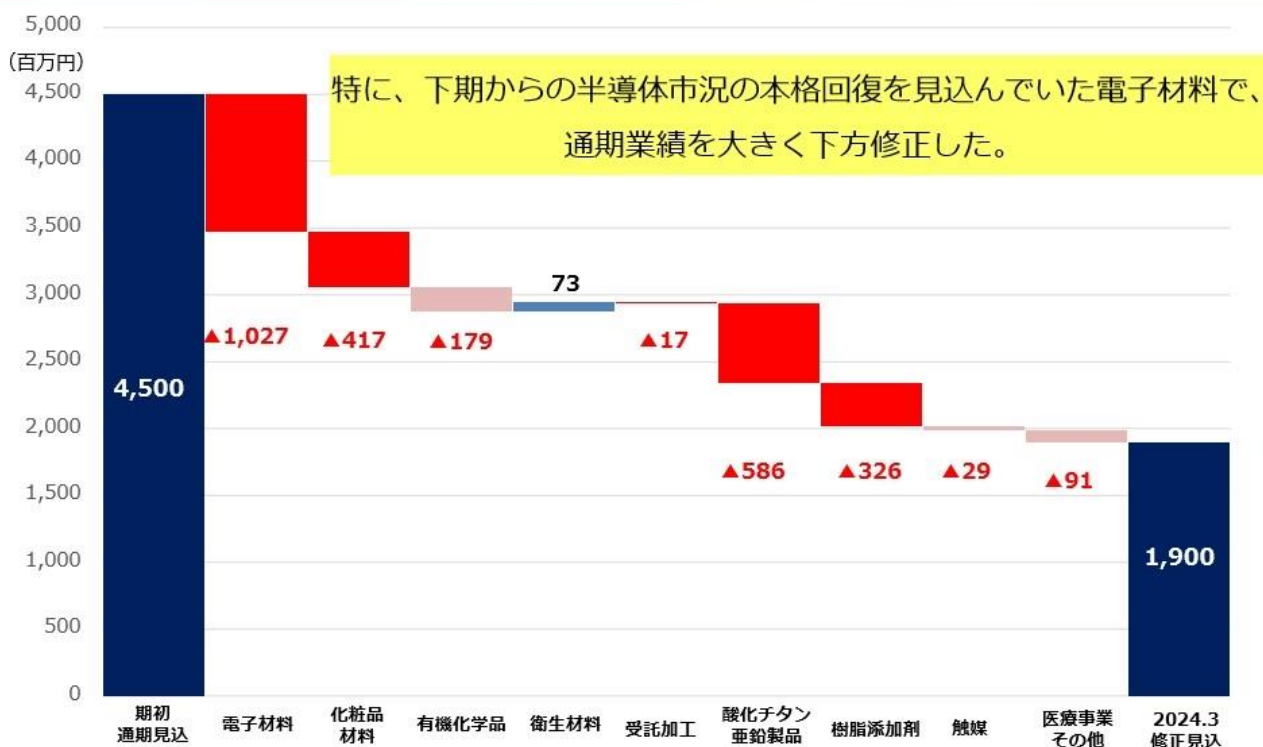
まずは、各セグメントでの上期利益見込みに対して、上期実績がどうであったのかを見ていきます。

一番左側の棒グラフが、当初上期見込みの営業利益の12億円、電子材料、化粧品材料、有機化学品と、セグメントにおける当初見込みとの乖離額が並び、その増減の結果、9億1,700万円、上期実績となりました。

もともと、上期業績は厳しいと見込んでおりました。そんな中、結果として電子材料、有機化学品、受託加工、触媒については見込みに対して上振れした一方で、化粧品材料、酸化チタン・亜鉛製品、樹脂添加剤、医療事業その他の四つのセグメントは、下振れとなりました。

その中でも突出して見込みを下回ったのは、濃い赤色で示した酸化チタン・亜鉛製品でございます。当初見込みから、マイナス 5 億 2,200 万円の乖離となりました。

2024年3月期 通期当初予想との差額内訳（サブセグメント別）



次に、通期見込みと下期修正後の各セグメント別の営業利益についてご説明します。

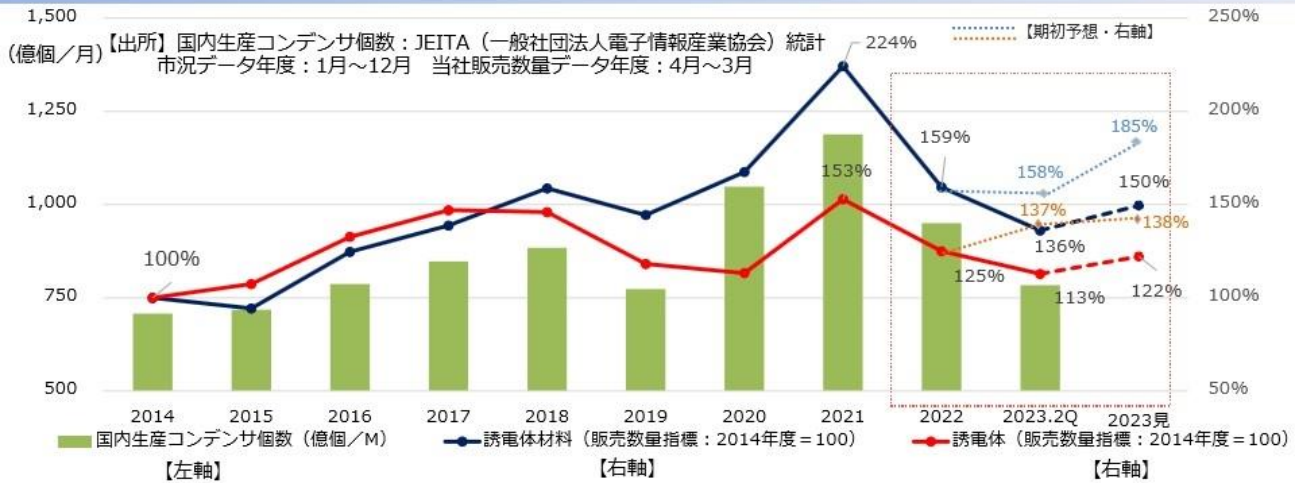
先ほどと同様に、左から当初見込みの営業利益の 45 億円から始まり、各セグメントの営業利益における当初見込みとの乖離額が並び、今回下期修正いたしました 19 億円に並んでまいります。

当初、下期から需要が回復すると見込んでいた電子材料を中心に、ほぼ全てのセグメントで当初見込みからの下方修正となりました。特にマイナス幅が大きいと見ているものを濃い赤色でお示ししておりますが、成長事業と位置づけている電子材料と化粧品材料、効率化検討事業と位置づけている酸化チタン・亜鉛製品と樹脂添加剤。これら四つになりまして、これらでマイナスの 9 割以上を占めております。

次ページ以降、この四つの事業について、それぞれの背景と今後に向けてをお話ししてまいります。

【電子材料】国内生産コンデンサ個数に比例し、足元は当社販売量も減少

成長事業



半導体市況のV字回復は見込めないが、ゆるやかな市況の回復とともに、当社販売量も回復に向かう見込み。

今後

誘電体

水熱合成法が得意な粒子の微細化技術を活かし、小粒子径でのポリウムゾーンに注力中。

誘電体材料

国内生産コンデンサ個数の生産回復・増加に対する、当社生産体制は整備済みであり、まずはその稼働率を高めていく。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

23

まずは、当初利益から最もマイナス幅が大きい見込みの電子材料からご説明いたします。

緑の棒グラフが国内生産コンデンサの年度別月平均個数を示しており、左軸で単位は億個パー月となります。一方、折れ線グラフは2014年度を100%とした、当社電子材料製品の販売数量指数を示しており、濃い青の折れ線グラフは誘電体材料、赤い折れ線グラフは誘電体を示しております。

ご覧のとおり、国内生産コンデンサ個数と当社電子材料製品の販売量には、おおむね相関がございます。それを踏まえて、四角で囲んだところをご覧になってください。

直近の国内生産コンデンサ個数は、2022年度よりも減少しており、当社の上期販売水準もそれに即したかたちで、前年比で減少していることが見てとれます。ここまではある程度見込んでおりましたが、折れ線グラフの2022年度から伸びる点線、こちらをご確認ください。当初通期見込みで誘電体材料で185%、誘電体で138%まで販売量は回復すると見ておりましたが、長引くコンデンサの生産調整の影響もあって、誘電体材料は150%、誘電体は122%程度の販売量にとどまる見込みでございます。

当初の期待どおりとはいかないものですが、上期実績に比べれば徐々にですが販売量は上向いていく見込みでございます。次年度以降での本格的な回復に期待しております。また、これは市況による外的要因が強く、当社の業界内でのシェアの喪失だとか、開発品の遅れといった内部要因ではないと見ております。

今後に向けては、誘電体は水熱合成法の特徴を生かした小粒子径のポリウムゾーンに注力していくとともに、誘電体材料については本中計期間前半で投資いたしました設備の稼働を、着実に上げていくことに注力してまいります。

【化粧品材料】 海外向け販売量が不振・国内向け販売量は増加見込み

成長事業



成長戦略

組織改編

コスメティック・イノベーション部の設立。マーケティング・開発・営業の集約による材料開発・提案力の強化を図る

海外展開

米国を中心に、営業を強化していく。米国以外も、エリア特有の化学物質規制対応をしながら、供給体制を強化していく。

新規分野

Zn・Ti以外にも、BaやCaといった豊富な元素の取り扱い実績を活かし、日焼け止め以外の化粧品分野への展開を図っていく。（メイク材料）



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

24

続いて、同じ成長事業として位置づけている、化粧品材料についてご説明いたします。

緑色の棒グラフ、市況として日焼け止め、および日焼け用化粧品の国内販売量を示しております。左軸で単位はトンパー年でございます。折れ線グラフは2019年度を100%とした際の当社化粧品材料の月平均販売数量指数を示してございまして、濃い青の折れ線グラフが国内の販売数量指数、赤い折れ線グラフが海外向けの販売数量指数を、それぞれ示しております。

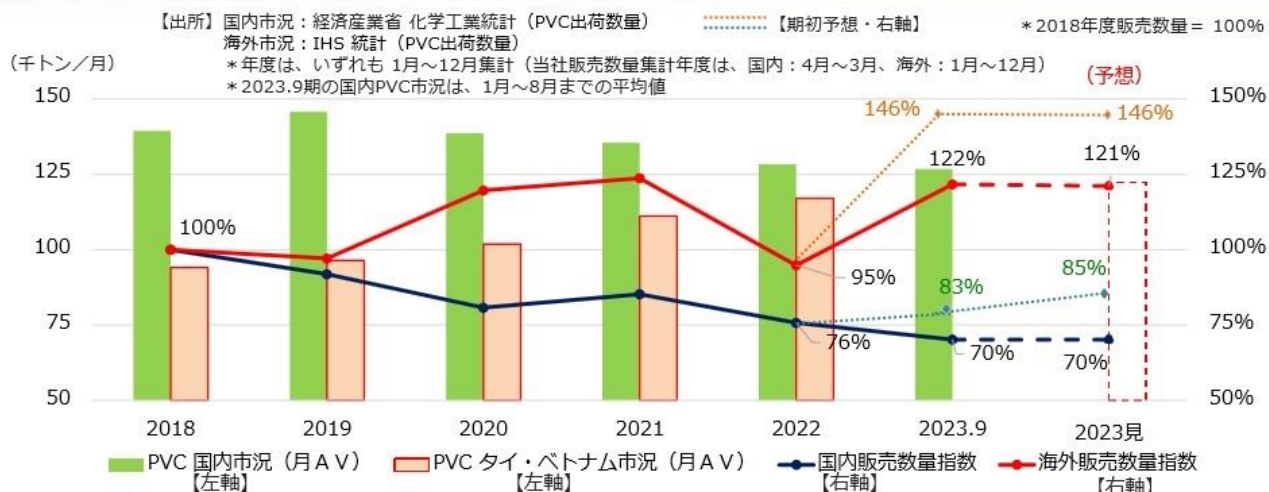
2023 年中間期の市況データにご注目ください。このデータは今年 8 月までの総量になり、既に前期 1 年間の総量に匹敵しております。国内でも通常的生活へおおむね戻り、マスクも外れてきたことへの裏づけでございまして、それを踏まえ、材料として需要期を迎える下期以降、国内販売量は回復し、水色の点線でお示しした当初見込みを上回る 116%となる見込みでございます。

一方の足元の課題は、海外向けでございまして、赤い折れ線グラフにご注目ください。オレンジ色の点線で示したとおり、年間平均 100%の販売を当初は見込んでおりました。今回 70%の計画へ下方修正いたしました。原因としては、コロナがいったん落ち着いた 2021 年度から 22 年度にかけて、海外向けが多く出荷を伸ばした分、ユーザー側での在庫調整が依然続いている模様でございまして、

また、当社から直接の輸出はございませんが、末端製品の中国での動向が鈍っている情報もあり、中国での消費の低迷がどの程度、当社製品の販売に影響があるのか、現在情報を精査中ではございます。

今後に向けてですが、まず組織面に関しては、9 月の 16 日付でコスメティック・イノベーション部を設立し、営業と開発機能を同一の組織に束ね、スピーディーな材料の提案力強化を図りました。また、課題である海外展開においても、すでに実績が多いアメリカを中心に欧州エリアも含め、地域特有の化学物質規制対応をしながら、営業および供給体制の強化を進めております。

そして日焼け止め材料以外の化粧品分野、特にメイク材料をターゲットに、当社が保有する豊富な元素の素材を提案していくことで、化粧品材料事業としての幅を広げていきたいと考えております。



- ▶ タイ・ベトナムを中心に、中長期的な東南アジアでの灌漑用設備・インフラ整備需要は拡大していく。現地での機動的な営業活動のために、現地スタッフの本社工場での技術研修を実施中。
- ▶ 足元海外向け販売数量は、鉛系から非鉛系安定剤への切り替えの過渡期により鉛系安定剤の販売が振るわなかった。

	2018	2019	2020	2021	2022	2023 2Q	2023
* 海外比率	31.8%	33.1%	40.9%	40.4%	36.9%	44.8%	44.6%

* タイ・ベトナム両現地子会社での、現地販売数量を元に試算

【予想】



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

25

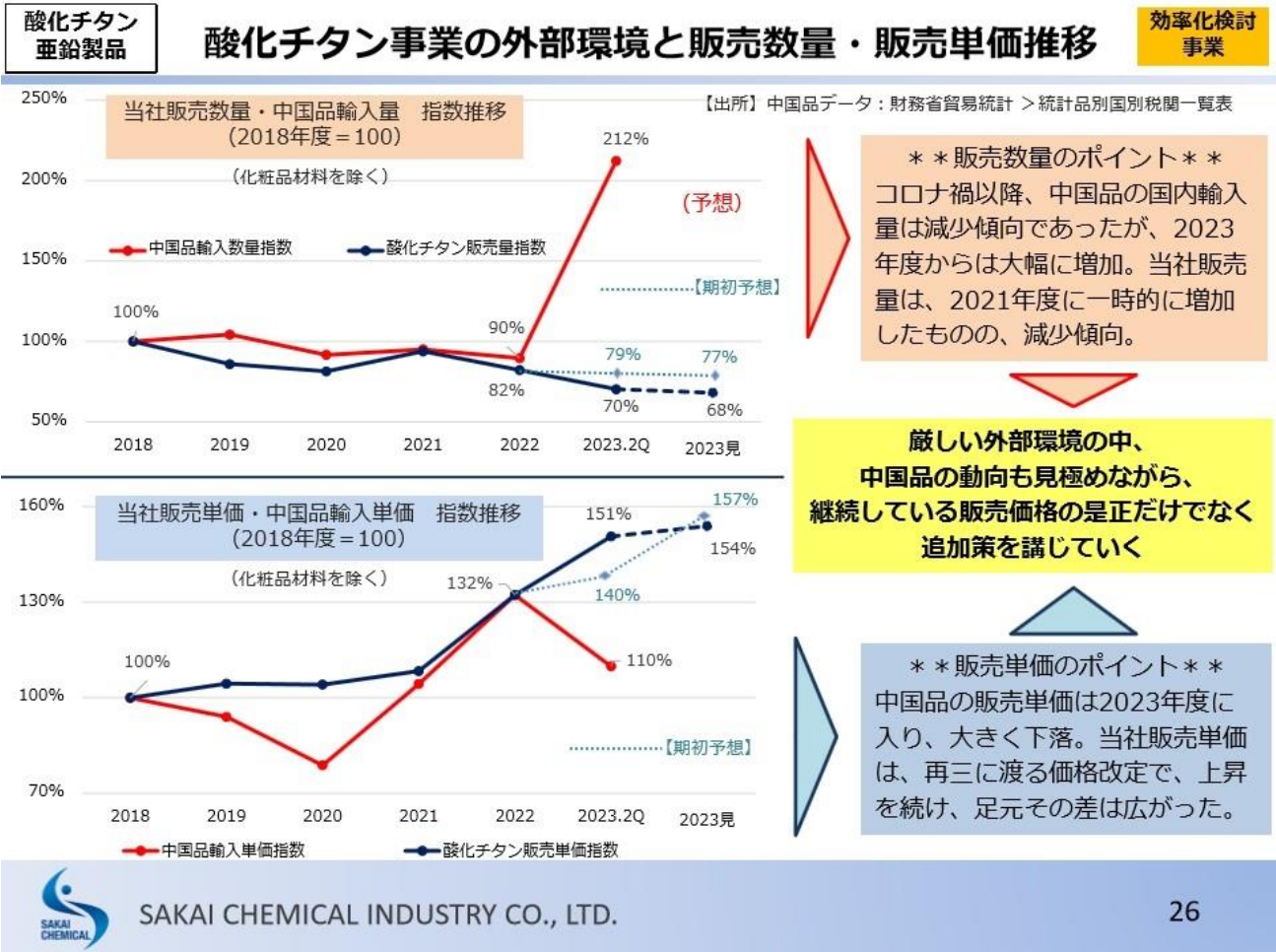
続きまして、効率化検討事業に位置づける樹脂添加剤事業についてご説明いたします。

棒グラフが塩化ビニル樹脂、つまり PVC 市況を示しております。緑色が国内、ピンク色がタイおよびベトナムの市況を示しております。左軸で単位は 1,000 トンパー月となります。折れ線グラフは 2018 年度を 100 としたときの、当社樹脂添加剤事業の月平均販売数量指数を示しております。赤色が海外現地での販売の動き、濃い青色が国内での販売の動きを示しております。

青色の国内は、国内 PVC 市況が下降気味であり、当初年間見込みの 85% から 70% へ販売見込みを下方修正いたしました。また、海外については、年間見込みの 146% には届かず、121% となる見込みでございます。

主要因はタイ国内で、当初の想定以上に鉛系安定剤の販売がふるわなかったためでございます。鉛系安定剤につきましては、タイ周辺国への輸出強化によって販売量確保に努めることで、落ち込みはカバーできる見込みであり、併せて既に進めている非鉛系安定剤の販売をさらに推進していく予定でございます。

このために現地スタッフの配合提案力強化などを目的に、本社工場での研修を既に開始しております。ピンク色の棒グラフでもお示ししているとおり、年々増加してきている東南アジアでのPVC需要を見据え、現地での拡販に引き続き注力してまいります。



そして最後に、同じく効率化検討事業に位置づけている、酸化チタン・亜鉛製品についてご説明いたします。本セグメントに占める酸化チタンの割合が非常に大きく、マイナス要因のほとんどが酸化チタンですので、ここにフォーカスを当てて説明させていただきます。

このスライドは、2018年度を100%としたときの中国品酸化チタンと、当社酸化チタンの販売数量と、販売単価の指数推移を示しております。上側のグラフが販売数量の指数で、下のグラフが販売単価の指数推移を示しております。赤い折れ線グラフが中国品、青の折れ線グラフが当社品の推移を示しております。

まず、上側の数量推移ですが、2023年度に入り、中国品が大量に国内に流れていることが分かりました。そして下側のグラフにございます単価推移を見ますと、当社は上期140%の見込みに対し、151%と価格改定を想定以上に進めておりますが、中国品に関しては前年が132%から110%に、大きく下げてきていることがよく分かるかと思えます。

このように、中国景気の悪化の影響によりまして、中国国内で販売し切れなくなった現地品が安価で日本国内に入ってきておりまして、国内の酸化チタンを取り巻く環境は厳しさを増しております。

このような背景もあり、量は追わない方針の中、上期実績は当初見込みの79%から70%へ販売減が落ち、さらに当期の年間仕上がりは68%まで減少するという見込みでございまして、それに伴う原価に占める単位当たりの固定費負担増が重荷となって、利益率をさらに落とす格好となっております。

このように厳しい事業環境は今後も続きますが、中国品の動きを見きわめながら、販売価格の是正だけではなくて、追加策を講じてまいる予定でございまして。

**【総括】 成長事業：販売量増に向けての準備は整備済み
効率化検討事業：樹脂添加剤の海外展開以外は量は追わず、収益改善に努める。**

		足元	今後
成長事業	電子材料	<ul style="list-style-type: none"> 民生品を中心としてMLCCの生産個数の生産調整局面により、当社販売数量も低調が続いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調整局面が終わり、自動車のEV化の広がりや5G・6G関連電子機器のさらなる広がりとともに販売量は増加する見通し。 それに向けた設備投資や、堺商事の完全子会社化を含む原材料調達強化は実施済み。
	化粧品材料	<ul style="list-style-type: none"> 国内は、コロナ禍が明け、日常生活への戻りもあり、需要は回復してきている。 海外は、コロナ明け直後に出荷した分の在庫調整が依然続いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国内は、日焼け止めへの意識の高まりのあり、順調に数量を伸ばしていく見通し。 海外は、在庫調整が落ちつけば、徐々に出荷は上向く見込み。中国関連は精査を継続。 メイク材料分野を開拓する。
効率化検討事業	酸化チタン・亜鉛	<ul style="list-style-type: none"> 中国品による安価品が多量に日本国内に輸入されており、足元厳しい販売状況が続く見通し。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存施策は継続し、数量は追わず、販売価格の改定を進めていく。 追加施策を講じて、収益の改善を急ぐ。
	樹脂添加剤	<ul style="list-style-type: none"> 国内は、PVC市況も下降傾向で、販売の増加は厳しい見込み。 海外は、PVC市況の拡大とともに、鉛系から非鉛系安定剤への切り替えが進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 低採算品の価格是正 or 廃番を進め、国内から海外への販売ポートフォリオの改善を進めていく。 海外は、灌漑対策向けの管材需要が期待でき、タイ・ベトナム現地を中心に、非鉛系安定剤の現地拡販に注力する。



以上、これまでが当初見込みから大きく下方修正を見込む4事業についての説明ですが、ここでこれらをまとめます。

電子材料については、足元は国内コンデンサ生産量が依然低調に推移しておりますが、自動車のEV化や5G、6Gといった電子機器の高性能化が進むにつれ、コンデンサ需要の増加に伴い生産量

も回復していき、当社販売量も増加していく見込みでございます。それに向けた設備投資や堺商事の完全子会社化も含めた、原材料調達の強化等には、施策はもう実施済みでございます。

化粧品材料につきましては、国内需要は回復が見られており、日焼け止めへの意識も高まっていることから、順調に出荷数量を伸ばしていく見込みでございます。一方の海外需要については、少なくとも中国を除いた現地での在庫調整が解消されてくれば、出荷量の回復が見込めると考えております。中国関連は不透明な要素があり、引き続き精査をしまいたいと考えております。

次に効率化検討事業でございますが、酸化チタン・亜鉛製品事業ですが、安価な中国品の流入など市場環境が悪化してきており、厳しい状態が続く見込みでございます。収益の急激な悪化により、これまでの取り組みに加え追加策を講じながら、早急に収益の改善を進めてまいります。

もう一つの樹脂添加剤事業は、国内のPVC市況は下降気味で厳しい状況が続く見込みですが、一方の海外は市場の広がりとともに鉛系から非鉛系へ、安定剤の切替えが進んでいく見込みでございます。それらを踏まえ、国内では低採算品の価格の是正や廃盤を推し進め、国内から海外へと販売ポートフォリオの改善をさらに進めてまいります。海外に関しては灌漑対策向けの需要など、広がっていくPVC市況を踏まえ、タイ、ベトナムを中心に現地での非鉛系安定剤の拡販に注力してまいります。

株主還元



【剰余金の配当の基本方針】

配当性向30%以上を目安に利益還元を実施（2回／年）

【2024年3月期について】

1株当たり年間70円（中間35円、期末35円）の配当を実施見込み



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

29

最後に、株主還元と設備投資などの見込みについてお話しいたします。

株主還元につきましては、業績を大きく下方修正しておりますが、現時点では期初発表しておりました金額からの変更はなく、中間期で35円、期末期でも35円の計70円配当を実施する見込みでございます。

また、次年度以降の株主還元、配当方針に関しましては、足元詰めております新中期経営計画の発表時にお知らせいたします。

なお、新中期経営計画につきましては、当初年度内にお示しできるものということで計画を進めてまいりましたが、この足元の大幅な業績の悪化を受け、土台となる営業利益の水準だとか、各種取り組み内容により、より精緻な検討が必要との判断に至りました。したがって、新中期経営計画につきましては今期末の決算発表時期に、併せて発表する方向で検討してまいりたいと考えております。

設備投資・減価償却・研究開発費推移・予想

金額単位：百万円

	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2023.9	2024.3
設備投資	6,891	8,403	9,567	5,967	2,658	1,646	3,500
減価償却費	3,189	3,686	4,243	4,331	4,417	2,255	4,500
研究開発費	2,951	2,898	2,487	2,376	2,674	1,359	3,000

(予想)

・設備投資

現中計前半で実施したほどの大型投資はなく、足元は必要な維持更新費用を計上予定。

・研究開発費

パイロットスケール品の早期製造移管や、医薬原薬中間体のCDMO化に向けた取り組みを加速させるため、スタッフの補充や教育に資金を投じていく。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

30

設備投資・減価償却・研究開発費推移については、赤枠をご覧ください。当初見込みからの変更はなく、大きな設備投資の予定はございません。

研究開発費につきましても、パイロットスケール品の製造移管や、医薬原薬中間体のCDMO化に向けた準備を進めるべく、必要な投資を実行していく予定でございまして、当初見込みに既に織り込んでおりますので、変更はございません。

当社からの決算説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

質問者[Q]：ご説明ありがとうございます。東証からの PBR 改善要請があると思いますが、それについてどのように考えられていますでしょうか。

矢倉 [A]：ご質問ありがとうございます。PBR 改善要請については真摯に対応していかなければならないと考えておりました。今は非常に PBR が低い会社ですので、やはり収益の低い効率化検討事業などは抜本的な見直しを図りながら、少しずつ収益を上げていきながら、キャッシュフローを改善し、PBR も改善していくやり方を考えております。

司会 [M]：ありがとうございます。続いてご質問、どうぞ。よろしいですか。会場からの質問はないようでございますので、続きましてオンラインでご参加の方からのご質問に移らせていただきます。ご質問につきましては IR 担当者様が取りまとめておられますので、この後は進行をよろしくお願いいたします。

話者 [M]：それでは質問者様、チャットでコメントいただくと助かります。音声等のやり取りが、事前の確認で不具合が生じておりましたので、今、届きました。読み上げます。

質問者[Q]：営業赤字となっていますが、定修などの一過性要因がどの程度あったのでしょうか。中間ではなく、2Q ネットということですか。7、8、9、第 2 クォーターで。

矢倉 [A]：細かくは計算できていないのですが、大体ざっと見て 2 億円ぐらい引き下げていると見えています。

大釜 [A]：補足ですが、2 クォーターにはやはり定期修理の影響がございまして、先ほどの 2 億円はその定期修理等の影響で 2 億円ほど、マイナスを見込んでいる。要は一時的なものというところでは。

話者 [M]：今のお答えでよろしいでしょうか。追加があれば、またお手数ですがチャットでよろしくお願いいたします。

質問者[Q]：下期のサブセグメント別の見方を教えてください。2Q と比べて改善するのは、どのサブセグメントですか。

話者 [M]：質問者様、こちらから確認ですが、上期から下期にかけて改善していくセグメントという理解でよろしいでしょうか。

質問者[Q]：23 ページの確認について。2023 年第 2 クォーターで 113%、2023 年見込みが 122% というのは、下期については 130%ぐらいになるという意味でしょうか。だとすると、かなり改善するという意味と捉えられますが、いかがでしょうか。

大釜 [A]：電子材料に関しましてはご指摘のとおり、下期で回復を見込んでおりますが、ただ当初計画に比べますとやはり、当初見込んでいた回復よりは緩やかとなりますが、ご理解のとおりで合っているかと思えます。

話者 [M]：大釜からお答えしましたが、よろしいでしょうか。

質問者[Q]：ではその同じ理屈でいえば、化粧品材料は上期で 34%、通期で 70%ということは、下期は 100%ぐらいまで戻るといえることでしょうか。

大釜 [A]：はい。化粧品に関しましても、もともとこれは季節商品ということもございまして、上期よりはかなり回復する見込みでございまして、数量的にも大体そのご理解で合っているかと思えます。

話者 [M]：以上、大釜より回答申し上げました。ほか追加、ほかのご質問ございますでしょうか。特に手が挙がらないようですので、マイクを事務局にお返しいたします。

司会 [M]：ありがとうございます。念のため、会場でお集まりの方から追加のご質問がございましたら、どうぞ。よろしいですか。特にならぬようでございます。会社様から、もし何か追加事項がございましたら、いかがでしょうか。よろしいですか。分かりました。

それでは以上をもちまして、本日の決算説明会を終了いたします。皆様、どうもありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

免責事項

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。また、化学事業のサブセグメントの数値は任意で公表しているものであり、監査を受けておりませんので、参考値とご承知おきください。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。